

特集

九州北部豪雨 から一年



(写真上) 上色見・中原地区
(平成 24 年 7 月 14 日)

(写真下) 同所 (平成 25 年 6 月)



平成 24 年 7 月 12 日、「これまで経験したことのない」豪雨が九州北部一帯を襲いました。

高森町でも、上色見地区を中心にかつてない規模の被害をもたらしました。

あれから一年。

被害の現場はどう立ち直っているのでしょうか。

私たちの災害への意識はどう変わったのでしょうか。

あの日を振り返り、ともに考えてみたいと思います。



【これまで経験したことのないような大雨】

平成24年7月12日、未明から熊本県に降った猛烈な雨に対し、気象庁は「これまでに経験したことのないような大雨」と発表。嚴重な警戒を呼びかけました。

早朝には、上色見地区を中心に各地で土砂崩れや河川がはん濫。

高森町では、地域の消防団へ出動要請を行うとともに「災害対策本部」を設置。被害状況の調査や危険箇所の通行制限、水道施設の復旧作業を始めました。

午前9時には、上色見3地区の113世帯332人に対し避難勧告を発令。15日の解除まで避難所を開設しました。

【ライフラインにも大きな影響】

災害発生当初から一部地域で電気や水道などのライフラインが停止。住民生活に大きな影響が出ました。

・停電（色見、河原、尾下の一部）

↓13日夜までに復旧

・断水（上色見・尾下の一部）

↓14日16時までに復旧

・固定電話不通（上色見・色見・河原の一部）

↓20日までに復旧

高森町の主な被害

【人的被害】 行方不明者 1人（女性1人）

【家屋被害】

半壊3棟、床上浸水7棟、床下浸水30棟

【道路被害】（金額は復旧事業費）

- ・国道325号線（大戸ノ口～洗川間）
- ・県道高森波野線（牧戸～黒岩間）
- ・町道15路線22カ所、約6,560万円
- ・橋りょう1カ所 約2,930万円（見込み）
- ・林道2路線5カ所 約2,270万円

【河川被害】

・4河川10カ所 約6,160万円

【農業関連被害】（金額は被害額）

農地 7地区、約1,960万円
 農業施設 7地区、約8,930万円（見込み）
 農作物 約4,440万円
 家畜等（肉用牛、採卵鶏） 約1,290万円

【災害廃棄物】（金額は処理・撤去費用）

災害がれき 約88トン、約510万円
 流木、土砂 約4,379トン、
 約1億1,920万円



▲住宅に流れ込んだ土砂を取り除く（津留・永野地区）



▲田畑に流れた大量の土砂（上色見地区）



▲集められた災害がれき（上色見総合センターグラウンド）

災害対応力を高める「自助」「共助」「公助」

防災対策・災害対応などを考えるうえで「自助」「共助」「公助」という考え方があります。

「自助」 自ら（家族も含む）の命は自らが守ること、または備えること

「共助」 近隣が互いに助け合って地域を守ること、または備えること

「公助」 町や警察などによる公的支援活動

大規模な災害が発生したときは、まず自身の生命や財産を守ることが最も重要です。

さらに、地域住民どうしが声をかけ合い、助け合うことで被害の拡大を抑えることができます。

高森町では、町などが直接支援する「公助」に加え、町民の「自助」「共助」を高めるための支援を行いました。

「自助」「共助」を高める高森町の取り組み



▲自主防災組織の訓練のようす（草部・芹口）

- 「高森町統合型防災ハザードマップ」の配布（高森町ホームページからも閲覧できます）
- 災害見舞金の給付金、給付対象を拡充
- 自主防災組織が行う防災訓練への補助
- 一人暮らし高齢者など災害時要援護者の情報を活用し、避難誘導を迅速化。

「公助」をさらに充実させる高森町の取り組み

- 次の3点を国・県へ要望し、実現しました
 1. 災害救助法の適用
 2. 激甚災害指定
 3. 上色見地区の砂防ダム整備事業の激特指定

災害時の救助活動や、災害復旧事業にかかる町の負担が大きく軽減。

- 「高森町地域防災計画」の見直し
- 畑・農道への崩土・流入土砂の除去支援

一般の災害復旧事業では対象外のため、町独自で支援



▲砂防ダムの建設など防災工事が進められています



▲懸命の捜索活動を行う自衛隊のみなさん



▲県内の広域消防本部から派遣された「緊急消防援助隊」

高森町への支援に感謝します

【数々のお見舞い、救援物資をいただきました】

豪雨災害発生直後より、町内外の多くの方から義援金をはじめ、飲食品、作業用品など数々のお見舞いをいただき、災害対応の大きな助けとなりました。ご支援をいただいたみなさまに対し、あらためて御礼申し上げます。ありがとうございました。

【多方面から捜索活動にご協力いただきました】

行方不明者の捜索を行うにあたり、高森町消防団をはじめ、警察、消防、自衛隊から多くの捜索人員を派遣していただきました。

特に、自衛隊からは通常任務を大きく超える5日間の捜索隊を、県内の広域消防本部（熊本市・山鹿植木・高遊原南・有明・菊池）から「緊急消防援助隊」を派遣していただきました。

上色見地区住民の声

災害発生時の状況

「まさかここまでとは」

- ・上色見に住んで60年になるが、こんな大雨の経験はなかった。
- ・川が流木でせき止められると、5分も経たないうちにみるみる水位が上がリ、急いで木によじ登り、どうにかやり過ごした。

避難状況 「車が使えない」

- ・車で避難しようとしたが、土砂で道がふさがり外に出られなかった。
- ・道路に出ると、集落の幹線道路がひざ上の高さまで水が流れていて、車が全く動けない状況だった。
- ・高齢者に避難を呼びかけても、「私は行かない」と断る人が多かった。避難所が遠いのが原因ではないか。

意識の変化

「同じ災害が起きないか不安」

- ・家の近くにある山の手入れがされていない。同じような災害が起きたらと不安が消えない。
- ・雨が降るたび、豪雨災害のことが頭をよぎる。同じ災害が起きないとは思えず、気分が暗くなる。

復旧支援「地域の絆を感じた」

「ボランティアの支援に感謝」

- ・雨がやむと、すぐに地域の仲間が駆けつけ、道にあふれた土砂を取り除いてくれた。日ごろの地域のつきあいが大切だと感じた。
- ・壊れた箇所を元に戻す「復旧」だけでは、同じ災害が繰り返し起きてしまう。町にはさらに対策を強化して災害を未然に防いでほしい。
- ・家や敷地にたまった土砂を見て途方に暮れていたが、ボランティアが20人も来て取り除いてくれた。本当に助かった。



▲無数の流木が川をせき止めた（上色見・中原地区）



家庭で災害の備えをしておきましょう

災害などの非常事態が発生してライフラインが止まったとき、どのようなものが必要になるのでしょうか？以下の持ち出し品リストを参考に、もしものときの準備をしておきましょう。

1. 以下の用品を非常持ち出し袋などにまとめ、一度に持ち運べる準備をしましょう。

| | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯、携帯ラジオ、予備の電池、充電器 | <input type="checkbox"/> 非常食（カンパン、缶詰、菓子類、ゼリー状の食品など） |
| <input type="checkbox"/> ヘルメット、防災ずきんなど | <input type="checkbox"/> ローソクやマッチ、ライター |
| <input type="checkbox"/> ロープ、雨具、軍手 | <input type="checkbox"/> 新聞紙（防寒用具としても使える） |
| <input type="checkbox"/> タオル（大小）やハンカチ、防塵マスク | <input type="checkbox"/> ナイロン袋、ポリ袋、ビニールシート |
| <input type="checkbox"/> 眼鏡、コンタクトレンズの予備 | <input type="checkbox"/> 筆記用具（ペン、ノート、油性マジック） |
| <input type="checkbox"/> 現金（千円札があると便利。公衆電話用の10円玉なども） | <input type="checkbox"/> 医薬品（消毒薬、三角巾、胃薬、解熱薬など） |
| <input type="checkbox"/> 貴重品（免許証や健康保険証の写し、通帳、印鑑など） | <input type="checkbox"/> 衣類、下着類、雨具、生理用品、簡易トイレ |
| <input type="checkbox"/> 万能ナイフやはさみ | <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ |
| <input type="checkbox"/> ティッシュ、ウェットティッシュ | <input type="checkbox"/> 家族やペットの写真（検索時に役立つ） |
| <input type="checkbox"/> 携帯用飲料水（ペットボトル500ml数本） | <input type="checkbox"/> 運動靴 |

2. 災害後数日を自活するために必要なものを確認しましょう。

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 食品（非常食3日分を含む数日分を貯蓄） | <input type="checkbox"/> 密閉できるビニール袋、レジャーシート |
| <input type="checkbox"/> 飲料水（大人1人あたり、1日3ℓが目安） | <input type="checkbox"/> お薬手帳 |
| <input type="checkbox"/> 生活用水（1人1日7ℓが目安。台所やお風呂の残り湯などをためておきましょう） | 【小さな子どもがいる家庭】 <input type="checkbox"/> ミルク、ほ乳瓶、紙おむつ、おんぶひもなど |
| <input type="checkbox"/> ラップ（水不足の時に食器に使用、食料の保存などに活用） | 【高齢者のいる家庭】 <input type="checkbox"/> 常備薬、介護用品、おむつ、おんぶひも、など |
| <input type="checkbox"/> ガムテープ（油性マジックを使ってメモに使用できる） | <input type="checkbox"/> キャンプ用品一式（テント、寝袋など） |

3. 家族や親しい人と、災害時の行動について確認をしましょう。

- 家からの避難場所（最寄りの場所に限らず、近くの避難場所を確認）
- 最終的に避難する場所
- 緊急連絡先（連絡先の氏名、電話番号、住所など最低2カ所を確認）
- 安否確認の方法（電話等による連絡が取れなかった場合の方法も）



例：自宅や避難所の決めた場所にメモを残す、

NTTや携帯電話会社の災害用伝言板サービスに伝言を残す

- その他、かかりつけの病院や電話番号、家族の持病、アレルギーなども確認しましょう。